

2013年12月18日

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

新生活準備調査2013

- ✓「インテリア・家具」「家電製品」など新生活準備費用は平均88.1万円。同居開始時期により費用は異なる
- ✓「結婚前同居」カップルの割合は、年々増加し28.3%に
- ✓「新居」「クルマ」「生命保険」など『結婚』が大きな消費のタイミングに
- ✓将来働きたいと考える新婦※は約9割。ライフスタイルに応じて今後の新生活準備消費に影響を与える可能性も

※「継続就業志向」と「復帰就業志向」の合計

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ(本社:東京都千代田区 代表取締役社長 富塚 優)が運営するブライダル総研では、新婚カップルの新生活準備状況について詳細に把握するために、「新生活準備調査」を首都圏、東海、関西の3地域で実施しました。ここに、調査結果の要旨をご報告いたします。

<「新生活準備費用」と「同居開始時期」について>P3・4

新生活準備費用は平均88.1万円。その費用は同居開始時期により大きく異なる。

また、「結婚前同居」カップルの割合が増加傾向に。

◆新生活準備のためにかかった費用:平均88.1万円

◆同居開始時期別新生活準備費用

「結婚後同居」:平均100.9万円 「結婚前同居」:平均59.7万円

◆同居開始時期

「結婚後」に同居を開始したカップルは67.6%(09年75.3%)で減少傾向

「結婚前」に同居を開始したカップルは28.3%(09年21.0%)で増加傾向

<インテリア・家具、家電製品について>P5・6

「インテリア・家具」「家電製品」の購入費用が減少傾向に。特に「結婚後同居」カップルは金額の減少幅が大きい。

◆インテリア・家具の購入にかかった費用(平均)

「全体」39.0万円(09年49.2万円) / 「結婚後同居」42.3万円(09年51.6万円) / 「結婚前同居」30.8万円(09年33.6万円)

◆家電製品の購入にかかった費用(平均)

「全体」35.0万円(09年49.1万円) / 「結婚後同居」36.9万円(09年52.2万円) / 「結婚前同居」30.6万円(09年35.1万円)

アイテム別購入率は「結婚後同居」の方が高くなる傾向に。

◆アイテム別購入率(インテリア・家具)

インテリア・家具のアイテム別の購入率は、「整理だんす」を除くすべてのアイテムについて、「結婚後同居」の方が「結婚前同居」より購入率が高い
購入率の差が大きいアイテム:1位 食器棚:16.8pt/2位 自分達用の布団:14.6pt/3位 自分達用のまくら:9.3pt

◆アイテム別購入率(家電製品)

家電製品のアイテム別の購入率は、「テレビ」と「パソコン」を除くすべてのアイテムについて、「結婚後同居」の方が「結婚前同居」より購入率が高い
購入率の差が大きいアイテム:1位 冷蔵庫:20.1pt/2位 エアコン:14.8pt/3位 洗濯機:12.9pt

<その他購入実態>P7・8

「新居」「クルマ」は約10人に1人が購入し、「生命保険(夫)」は半数以上が結婚を機に新規加入または変更・追加を行なっている。

◆新居の形態:「購入した」10.6%

◆結婚を機としたクルマの購入状況(夫婦共用):「新車を購入した」+「中古車を購入した」9.8%

◆結婚を機に生命保険への新規加入または変更・追加を行なった割合:夫が54.1%、妻が41.0%

<ライフスタイルと結婚を決めた理由>P9・10

約9割の新婦が「結婚後も将来的に働きたい」と考える。

◆結婚後の妻の働き方に対する考え方:「継続就業志向」は39.6%、「復帰就業志向」は47.3%であり、将来的に働きたいと考えている層は87.0%

※「継続就業志向」=「子供ができて、ずっと仕事を続ける」+「子供は持たず、仕事を一生続ける」

※「復帰就業志向」=「子供ができたらず仕事をやめるが、子供が大きくなったら再び仕事を始める」

結婚理由において「子供など家族をつくること」が強まる。

◆将来子供を持ちたい:91.9%

◆結婚を決めた理由:「子供など家族が欲しかったから」が増加傾向(11年:32.2%→12年:36.0%→13年:39.7%)

◆出版・印刷物へデータを転載する際には、「新生活準備調査2013 リクルートブライダル総研 調べ」と明記いただけますようお願い申し上げます。

◆「新生活準備調査2013」の詳細は、弊社『ブライダル総研』サイト(<http://bridal-souken.net/>)より、ダウンロードいただけます。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

【調査方法】 郵送法

【調査期間】 2013年5月17日～6月24日

【調査対象】 2012年4月～2013年3月に結婚をした首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)、東海(愛知・岐阜・三重)、関西(大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山)の『ゼクシィ』・『ゼクシィインテリア』読者、『ゼクシィnet』会員の中から、地域ごとにランダムサンプリングし調査票を郵送。調査票への記入は妻に依頼。

調査票発送数: 1,680件 調査票回収数: 839件 回収率: 49.9%

【有効サンプル数】

計775人[首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉):341人、東海(愛知・岐阜・三重):153人、関西(大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山):281人]

【集計対象】 新生活を始めるにあたってインテリア・家具または家電製品を最低1つでも購入した『ゼクシィ』・『ゼクシィインテリア』読者、『ゼクシィnet』会員。

【集計方法】 <地域別>「現在の居住地」で集計。

<全体集計>各地域の婚姻件数(平成23年厚生労働省人口動態調査)に合わせてウエイトバック集計を行ない、首都圏・東海・関西地域それぞれの婚姻件数に応じた全体平均(推計値)を算出(各地域の婚姻件数合計は375,318組)。

※本文中で使用している2012年以前のデータに関する調査方法、調査対象の範囲は本年と同様、有効サンプル数については下記の通りです。

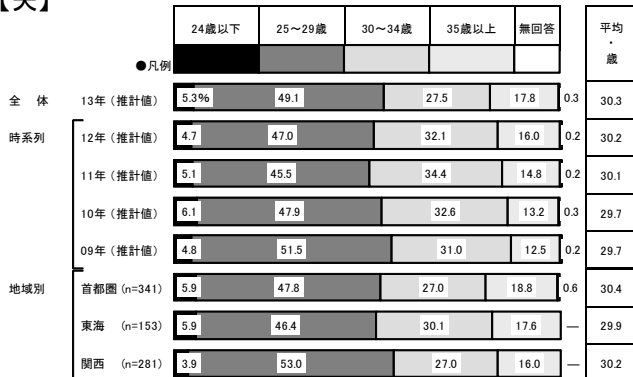
	有効サンプル数(人)			
	計	首都圏	東海	関西
2012年調査	870	301	282	287
2011年調査	980	376	309	295
2010年調査	1015	376	344	295
2009年調査	881	312	263	306

【注意点】 図表の構成比(%)は百分率(%)で表示してあります。百分率は小数第二位を四捨五入してあるため、構成比の合計が100%にならない場合があります。また、図表の平均も小数第二位を四捨五入して表示してあります。

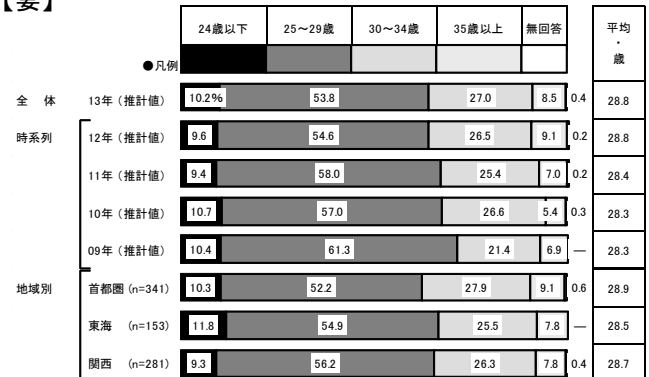
【回答者のプロフィール】

■結婚時の年齢(全体/単一回答)

【夫】



【妻】



■結婚前の居住地(全体/単一回答)

【夫】

	全体				地域別		
	13年(推計値)	首都圏(n=341)	東海(n=153)	関西(n=281)	首都圏	東海	関西
首都圏・計	50.7	91.5	1.3	0.7			
東京	22.1	39.9	—	0.7			
神奈川	12.2	22.3	—	—			
千葉	7.7	14.1	—	—			
埼玉	8.6	15.2	1.3	—			
東海・計	16.6	0.6	97.4	1.4			
愛知	13.3	0.3	78.4	1.4			
岐阜	2.0	—	12.4	—			
三重	1.2	0.3	6.5	—			
関西・計	28.7	1.2	1.3	96.4			
大阪	13.8	0.9	1.3	45.6			
兵庫	6.5	0.3	—	22.1			
京都	3.3	—	—	11.4			
奈良	1.6	—	—	5.7			
滋賀	2.5	—	—	8.5			
和歌山	0.9	—	—	3.2			
その他の地域	3.5	5.9	—	1.1			
無回答	0.6	0.9	—	0.4			

【妻】

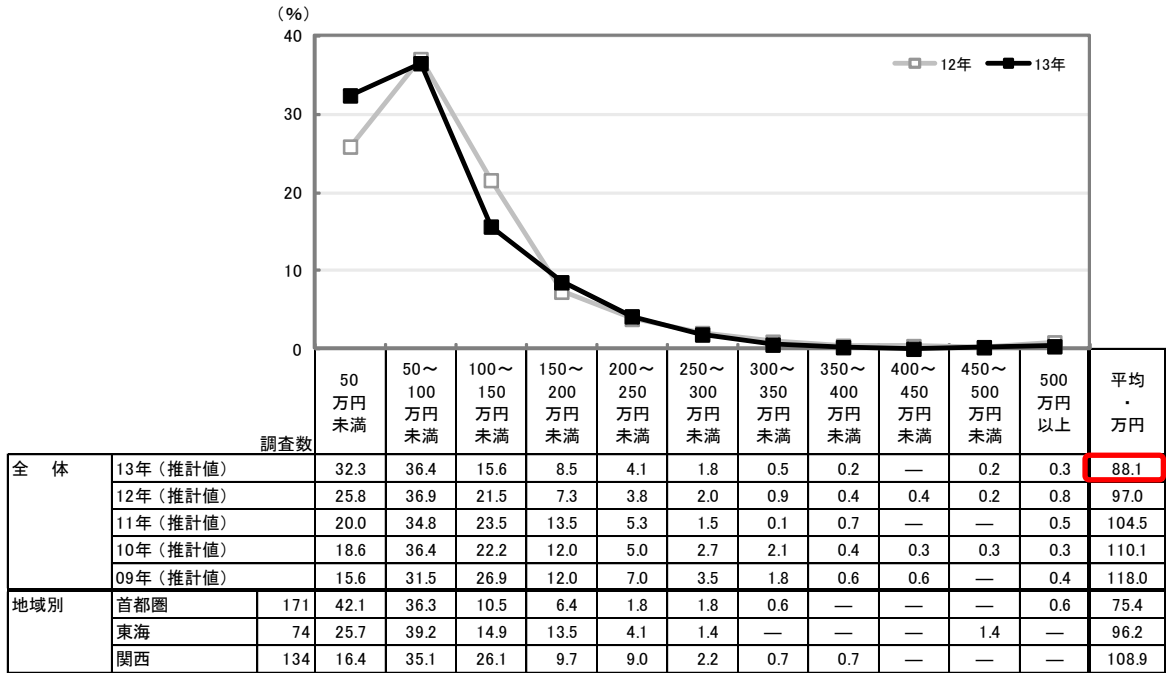
	全体				地域別		
	13年(推計値)	首都圏(n=341)	東海(n=153)	関西(n=281)	首都圏	東海	関西
首都圏・計	49.6	88.6	0.7	2.8			
東京	21.5	38.1	0.7	1.4			
神奈川	10.6	19.1	—	0.4			
千葉	7.5	13.2	—	0.7			
埼玉	10.1	18.2	—	0.4			
東海・計	16.1	0.9	91.5	2.5			
愛知	12.8	0.9	73.2	1.4			
岐阜	2.1	—	12.4	0.4			
三重	1.2	—	5.9	0.7			
関西・計	28.7	3.2	4.6	90.7			
大阪	13.7	1.2	1.3	44.5			
兵庫	6.7	0.9	—	21.7			
京都	2.8	0.6	0.7	8.2			
奈良	2.3	0.3	0.7	7.1			
滋賀	2.2	—	2.0	6.4			
和歌山	1.0	0.3	—	2.8			
その他の地域	5.1	6.5	3.3	3.6			
無回答	0.6	0.9	—	0.4			

■現在の居住地(全体/単一回答)

	全体				地域別		
	13年(推計値)	首都圏(n=341)	東海(n=153)	関西(n=281)	首都圏	東海	関西
首都圏・計	54.9	100.0	—	—			
東京	21.9	39.9	—	—			
神奈川	13.8	25.2	—	—			
千葉	7.2	13.2	—	—			
埼玉	11.9	21.7	—	—			
東海・計	16.3	—	100.0	—			
愛知	13.5	—	83.0	—			
岐阜	1.5	—	9.2	—			
三重	1.3	—	7.8	—			
関西・計	28.8	—	—	100.0			
大阪	13.3	—	—	46.3			
兵庫	7.6	—	—	26.3			
京都	2.6	—	—	8.9			
奈良	2.2	—	—	7.5			
滋賀	2.6	—	—	8.9			
和歌山	0.6	—	—	2.1			

新生活準備のためにかかった費用の平均は全体で88.1万円で、前年調査から8.9万円減少した。ここ4年間で、118.0万円(09年)→88.1万円(13年)と29.9万円減少している。

■新生活準備のためにかかった費用(金額回答者のみ)



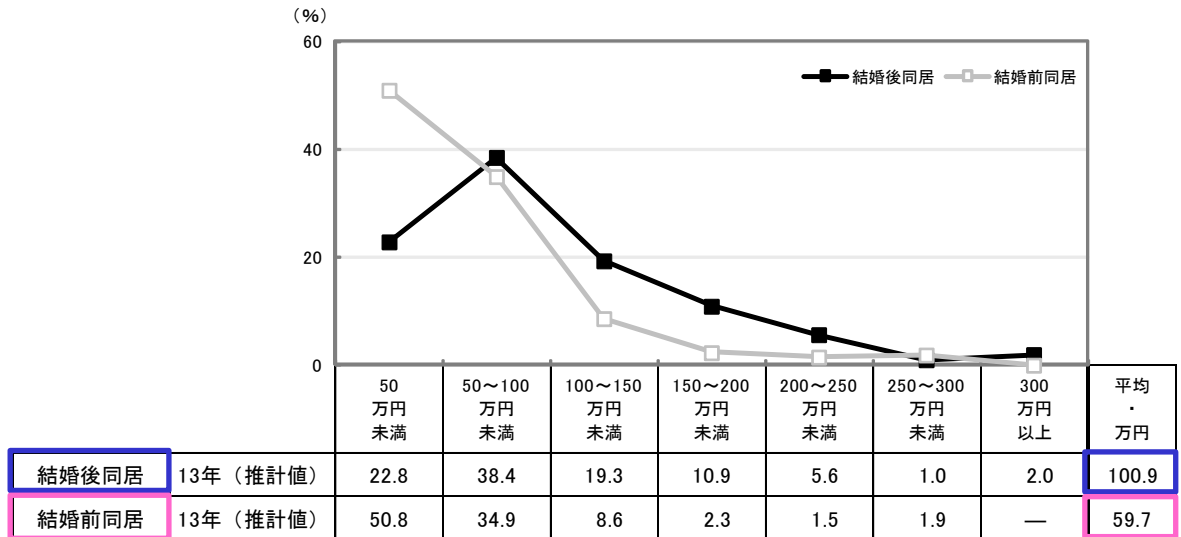
※新生活準備費用には、「インテリア・家具」「家電製品」「嫁入り道具としての着物」「嫁入り道具としてのパール」「賃貸費用/敷金・礼金」「引越し」の費用が含まれる

※「家・マンションの購入費用/頭金」「クルマの購入費用」は平均金額に大きく影響するため、新生活準備費用からは除外している

新生活準備のためにかかった費用をみると、【結婚後同居】の平均は100.9万円で、【結婚前同居】より41.2万円多い。

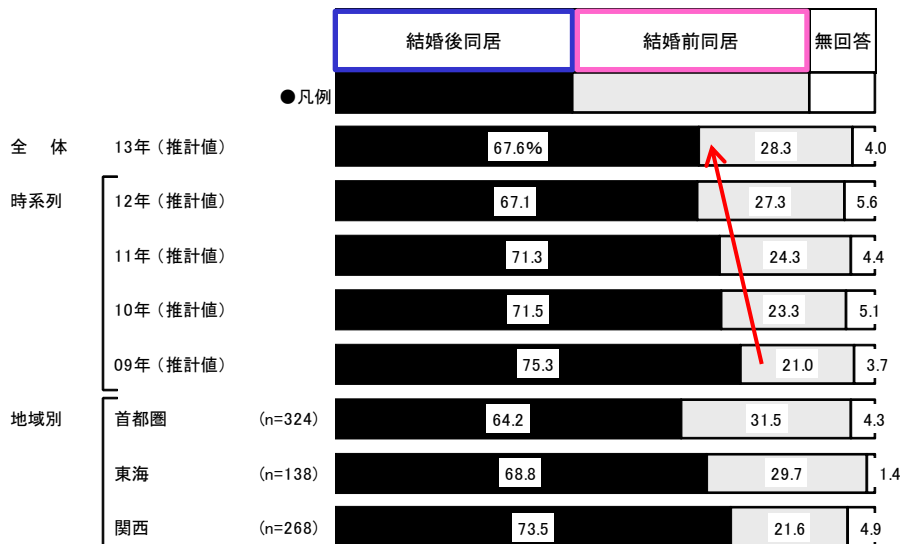
親とは別居の場合に、新居と一緒に住み始めた時期(同居開始時期)は、「結婚後同居」が67.6%を占める。一方、「結婚前同居」の割合は28.3%で年々増加傾向にある。

■同居開始時期別 新生活準備のためにかかった費用(金額回答者のみ)



※新生活準備費用には、「インテリア・家具」「家電製品」「嫁入り道具としての着物」「嫁入り道具としてのパール」「賃貸費用／敷金・礼金」「引越し」の費用が含まれる
 ※「家・マンションの購入費用／頭金」「クルマの購入費用」は平均金額に大きく影響するため、新生活準備費用からは除外している

■同居開始時期(親と別居している人／単一回答)



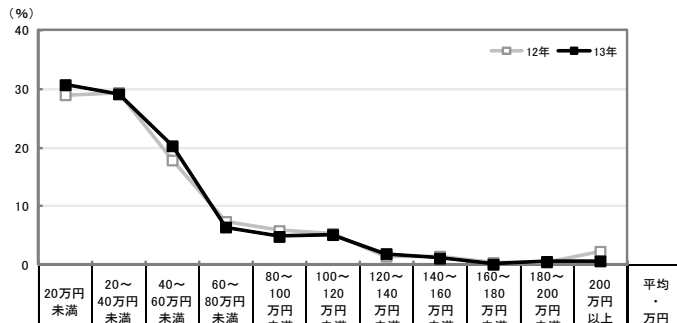
インテリア・家具の購入にかかった費用の平均は全体で39.0万円で、前年調査から5.0万円減少した。同居開始時期別にみると、【結婚後同居】の平均は42.3万円で、【結婚前同居】より11.5万円多い。

家電製品の購入にかかった費用の平均は全体で35.0万円で、前年調査から4.6万円減少した。同居開始時期別にみると、【結婚後同居】の平均は36.9万円で、【結婚前同居】より6.3万円多い。

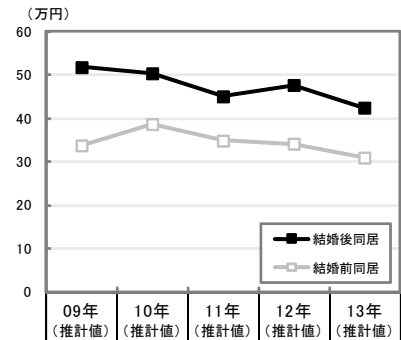
■インテリア・家具の購入にかかった費用(いずれかのインテリア・家具購入者のうち、金額回答者のみ/単一回答)

【全体】

【同居開始時期別 インテリア・家具購入費用の推移】



調査数	金額別											平均・万円	
	20万円未満	20～40万円未満	40～60万円未満	60～80万円未満	80～100万円未満	100～120万円未満	120～140万円未満	140～160万円未満	160～180万円未満	180～200万円未満	200万円以上		
全体	13年(推計値)	30.7	29.1	20.2	6.4	4.7	5.0	1.8	1.0	—	0.5	0.6	39.0
	12年(推計値)	28.9	29.3	17.8	7.3	5.7	5.3	1.4	1.4	0.3	0.3	2.2	44.0
	11年(推計値)	25.5	31.0	20.4	7.2	4.4	8.0	1.3	1.4	0.1	—	0.8	42.3
	10年(推計値)	24.8	27.7	21.1	7.0	5.1	6.2	1.7	3.0	0.5	0.3	2.5	48.6
	09年(推計値)	22.2	27.7	20.5	8.7	7.0	6.9	1.7	2.6	0.3	0.2	2.3	49.2
地域別	首都圏	229	38.4	27.9	17.0	4.8	4.4	4.4	1.3	—	—	0.4	34.2
	東海	101	24.8	35.6	17.8	5.0	5.9	1.0	1.0	—	2.0	1.0	41.5
	関西	188	19.1	27.7	27.7	10.1	4.8	5.9	3.2	0.5	—	0.5	46.8

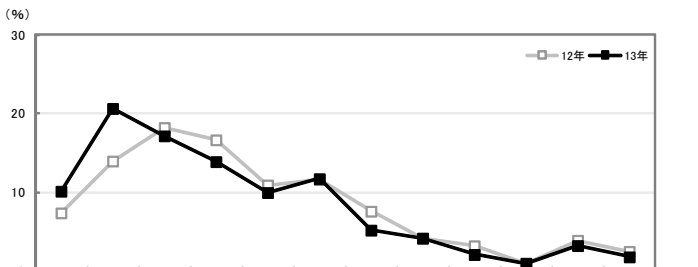


	09年(推計値)	10年(推計値)	11年(推計値)	12年(推計値)	13年(推計値)
結婚後同居	51.6	50.2	44.9	47.5	42.3
結婚前同居	33.6	38.5	34.7	34.0	30.8

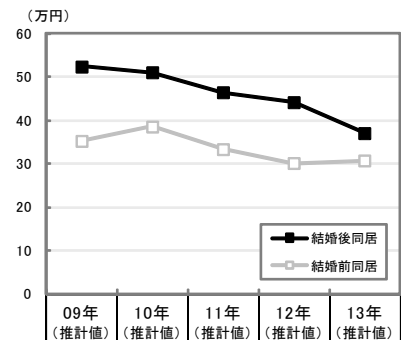
■家電製品の購入にかかった費用(いずれかの家電製品購入者のうち、金額回答者のみ/単一回答)

【全体】

【同居開始時期別 家電製品購入費用の推移】



調査数	金額別													平均・万円	
	10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30～40万円未満	40～50万円未満	50～60万円未満	60～70万円未満	70～80万円未満	80～90万円未満	90～100万円未満	100～110万円未満	110万円以上			
全体	13年(推計値)	10.1	20.6	17.1	13.8	9.9	11.6	5.1	4.1	2.0	0.9	3.1	1.7	35.0	
	12年(推計値)	7.3	13.9	18.2	16.6	10.8	11.5	7.5	4.0	3.1	0.8	3.8	2.4	39.6	
	11年(推計値)	6.9	11.2	12.5	18.3	11.3	15.0	6.0	6.0	4.9	1.4	5.1	1.5	42.9	
	10年(推計値)	4.4	10.6	12.6	14.6	12.5	14.2	8.3	5.6	5.9	1.7	6.4	3.0	47.7	
	09年(推計値)	5.9	8.9	10.3	17.3	9.6	16.5	8.0	5.2	5.8	1.2	7.5	3.7	49.1	
地域別	首都圏	216	12.5	30.1	19.4	12.0	8.3	7.4	5.1	1.4	0.5	1.4	1.4	27.7	
	東海	101	8.9	11.9	10.9	19.8	10.9	17.8	2.0	5.9	4.0	2.0	4.0	2.0	40.9
	関西	190	6.3	8.4	16.3	13.7	12.1	15.8	6.8	7.9	3.7	1.1	5.8	2.1	44.9



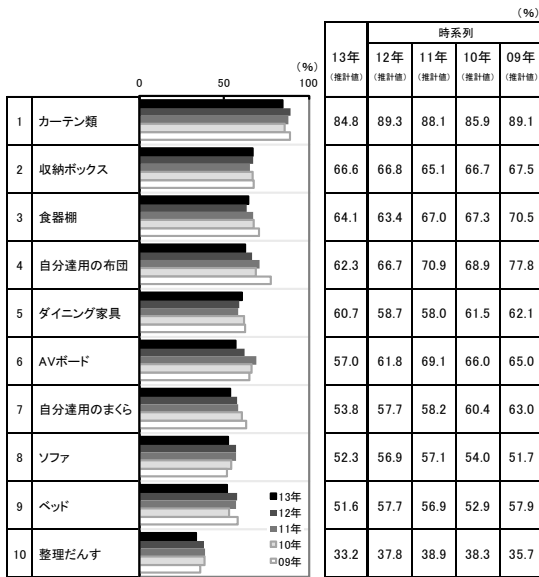
	09年(推計値)	10年(推計値)	11年(推計値)	12年(推計値)	13年(推計値)
結婚後同居	52.2	50.9	46.3	44.0	36.9
結婚前同居	35.1	38.4	33.2	30.0	30.6

インテリア・家具のアイテム別の購入率は、「整理だんす」を除くすべてのアイテムについて、【結婚後同居】の方が【結婚前同居】より購入率が高い。

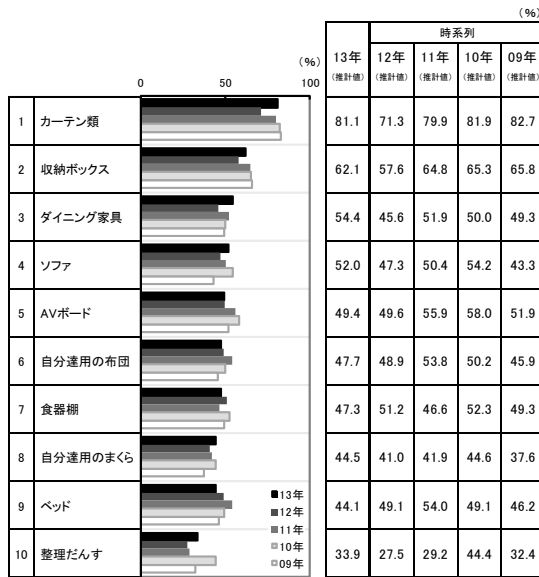
家電製品のアイテム別の購入率は、「テレビ」と「パソコン」を除くすべてのアイテムについて、【結婚後同居】の方が【結婚前同居】より購入率が高い。

■同居開始時期別 インテリア・家具のアイテム別購入率 (いずれかのインテリア・家具購入者/それぞれ単一回答)

【結婚後同居】



【結婚前同居】



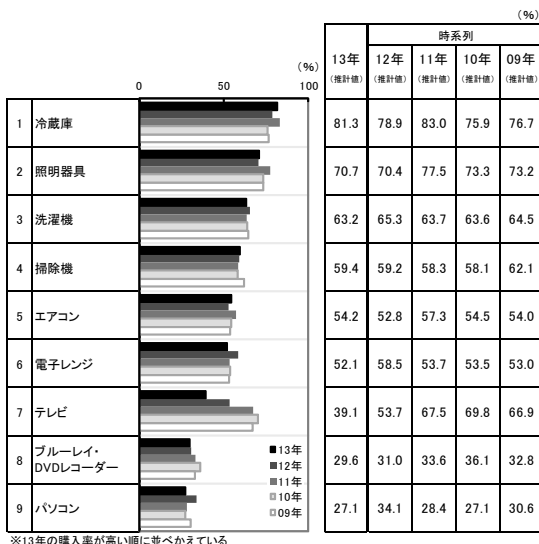
【購入率のポイント差】

アイテム	ポイント差	
	13年 (推計値)	結婚後同居 - 結婚前同居
1 食器棚	16.8	
2 自分達用の布団	14.6	
3 自分達用のまくら	9.3	
4 AVボード	7.5	
5 ベッド	7.4	
6 ダイニング家具	6.3	
7 収納ボックス	4.5	
8 カーテン類	3.7	
9 ソファ	0.3	
10 整理だんす	- 0.7	

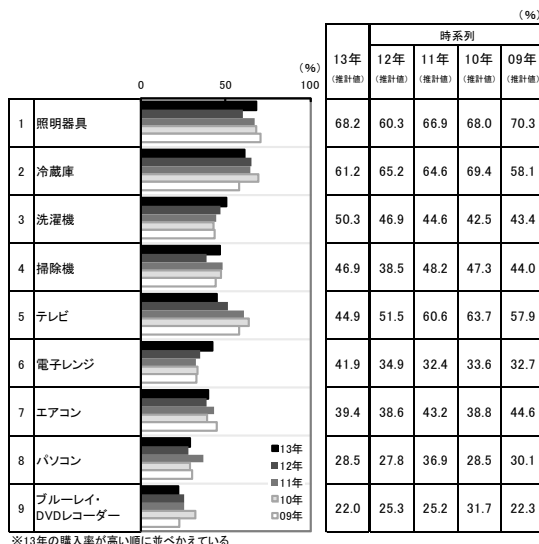
※ポイント差が大きい順に並べかえている

■同居開始時期別 家電製品のアイテム別購入率 (いずれかの家電製品購入者/それぞれ単一回答)

【結婚後同居】



【結婚前同居】



【購入率のポイント差】

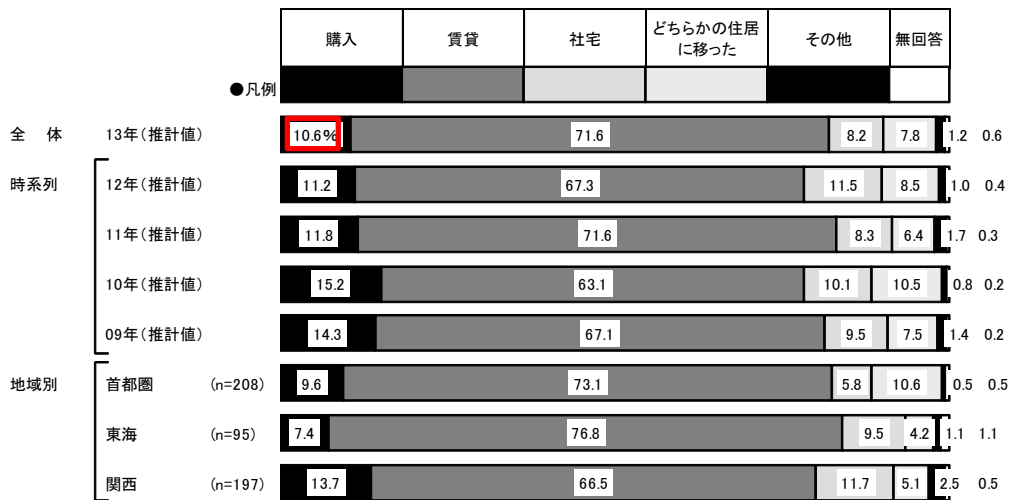
アイテム	ポイント差	
	13年 (推計値)	結婚後同居 - 結婚前同居
1 冷蔵庫	20.1	
2 エアコン	14.8	
3 洗濯機	12.9	
4 掃除機	12.5	
5 電子レンジ	10.1	
6 ブルーレイ・DVDレコーダー	7.6	
7 照明器具	2.5	
8 パソコン	- 1.4	
9 テレビ	- 5.8	

※ポイント差が大きい順に並べかえている

新居の形態は、「賃貸」が71.6%、「購入」が10.6%であった。

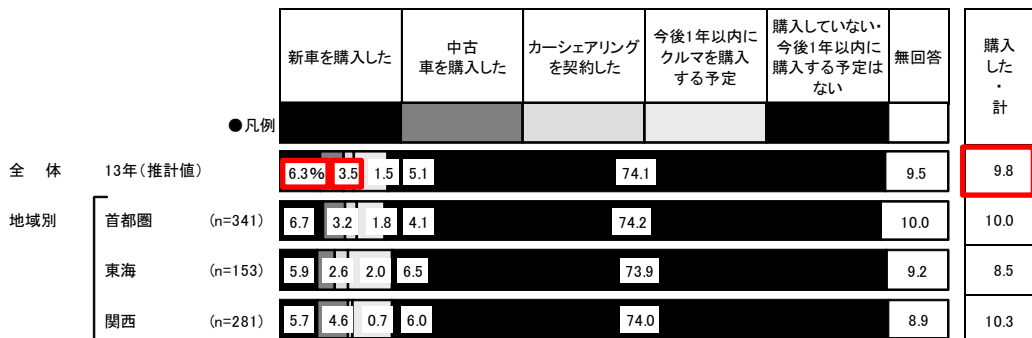
結婚を機とした夫婦共用のクルマの購入状況は、「新車を購入した」は6.3%で、「中古車を購入した」(3.5%)を合わせ、「購入した・計」は9.8%であった。

■新居の形態(親と別居している人のうち、結婚後同居した人／単一回答)



※購入：13年は「新築注文の一戸建てを購入した」「新築分譲の一戸建てを購入した」「中古の一戸建てを購入した」「新築マンションを購入した」「中古マンションを購入した」のいずれかを回答した人を集計
 12年までは「新しく一戸建てを購入・建築した」「新しくマンションを購入した」のいずれかを回答した人を集計
 ※賃貸：「一戸建てを借りた」「マンションを借りた」「アパートを借りた」「公団住宅等を借りた」のいずれかを回答した人を集計

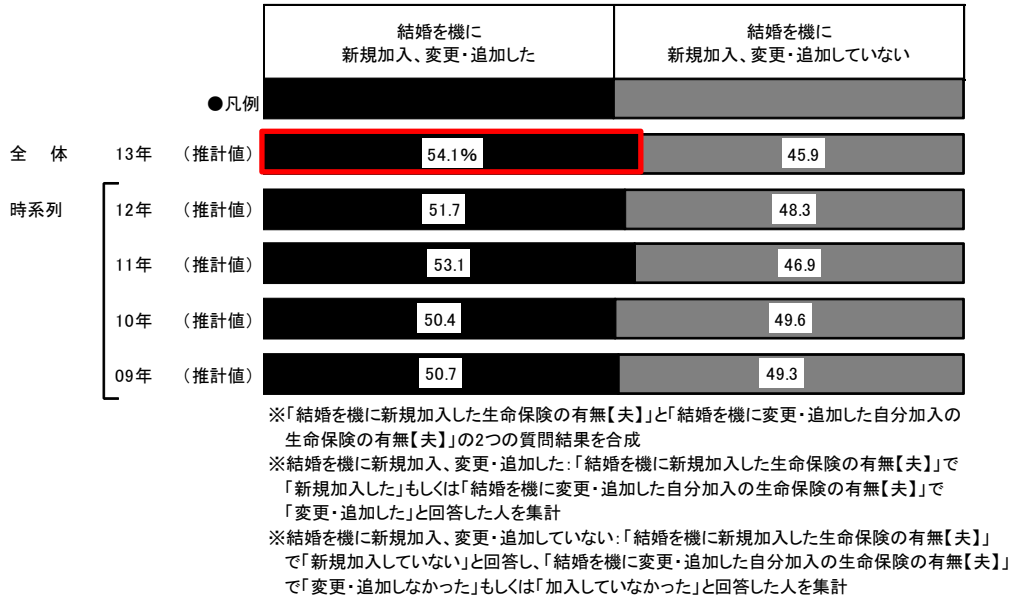
■結婚を機とした夫婦共用のクルマの購入状況(全体／単一回答)



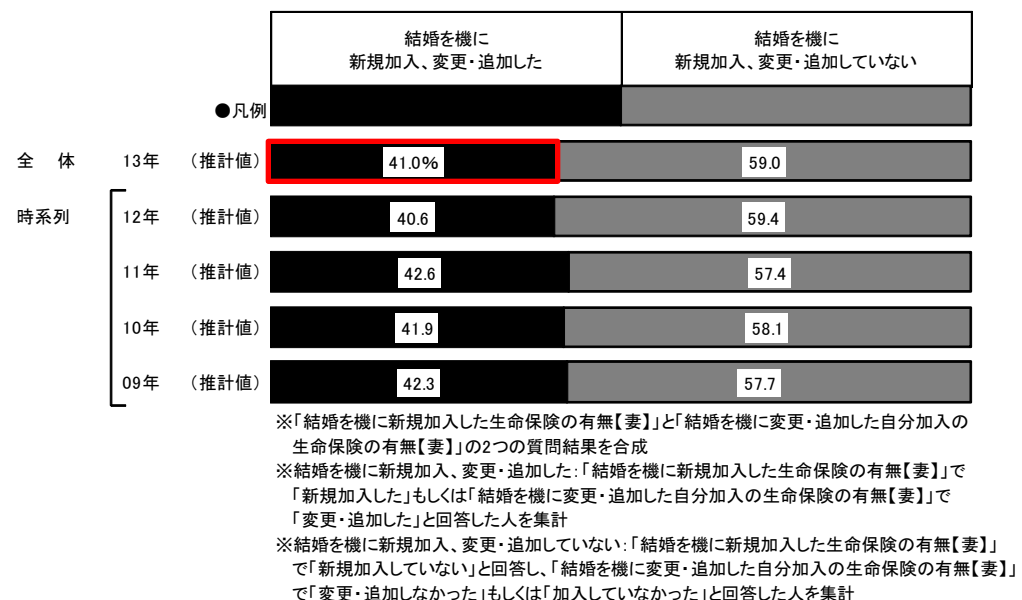
結婚を機に生命保険に新規加入または変更・追加した人は、夫が54.1%、妻が41.0%であった。

夫が生命保険に新規加入または変更・追加した人の割合は、12年にやや減少したものの10年以降増加傾向にあり、10年より3.7ポイント増加している。

■結婚を機とした生命保険の新規加入、変更・追加の状況【夫】（全体／単一回答）

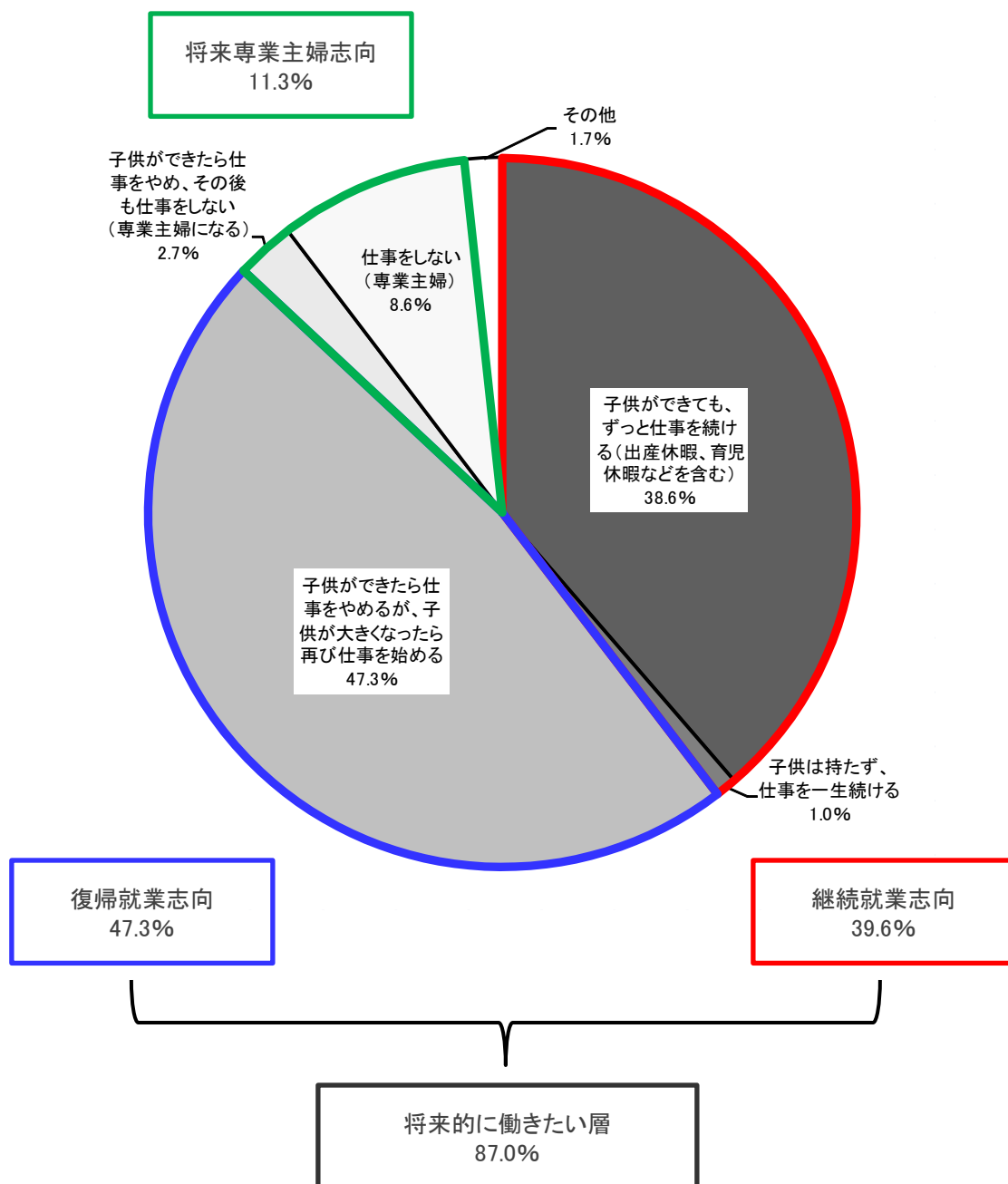


■結婚を機とした生命保険の新規加入、変更・追加の状況【妻】（全体／単一回答）



結婚後の妻の働き方に対する考え方は、「子供ができれば仕事をやめるが、子供が大きくなったら再び仕事を始める」(47.3%)、「子供ができて、ずっと仕事を続ける(出産休暇、育児休暇などを含む)」(38.6%)、「子供は持たず、仕事を一生続ける」(1.0%)を合わせ、【将来的に働きたい層】は87.0%であった。

■結婚後の妻の働き方に対する考え方(全体/単一回答) 【13年(推計値)】
※「無回答」を除いて集計している

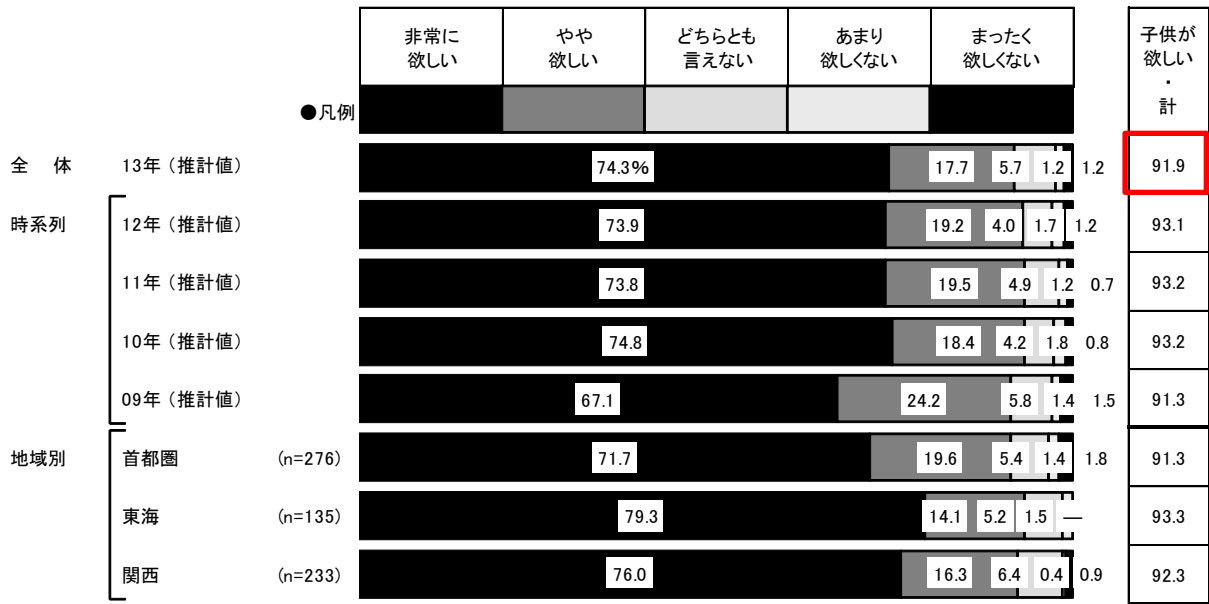


子供に対する考え方と結婚を決めた理由

将来子供を持ちたいかについては、「非常に欲しい」人は74.3%で、「やや欲しい」人は17.7%であった。「非常に欲しい」と「やや欲しい」を合わせ、「子供が欲しい・計」は91.9%であった。

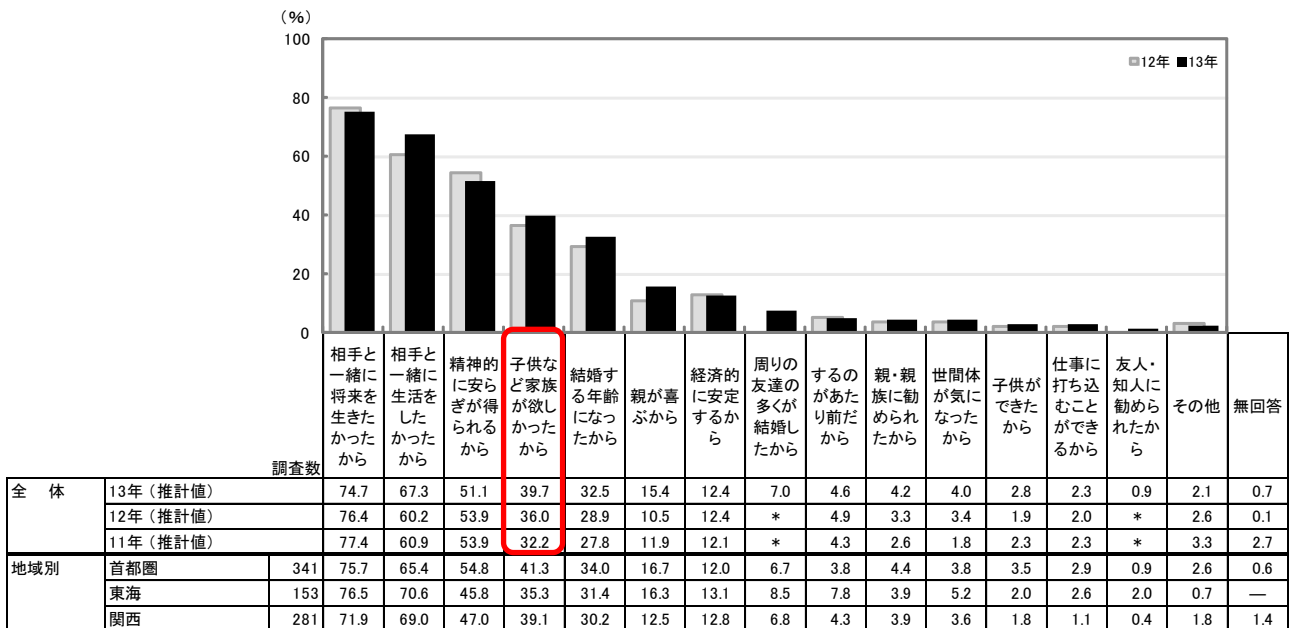
結婚を決めた理由は、「相手と一緒に将来を生きたかったから」が74.7%で最も高く、次いで「相手と一緒に生活をしたかったから」が67.3%、「精神的に安らぎが得られるから」が51.1%、「子供など家族が欲しかったから」が39.7%で続く。「子供など家族が欲しかったから」は年々増加傾向にあり、11年より7.5ポイント増加している。

■ 将来子供を持ちたいか[調査時点における回答] (結婚を決めた当時に子供がいなかった人/単一回答)
 ※「既にいる」「無回答」を除いて集計している



※「子供が欲しい・計」:「非常に欲しい」「やや欲しい」のいずれかを回答した人を集計

■ 結婚を決めた理由(全体/複数回答)



※図表中の*は、該当する項目が存在しないことを示している